

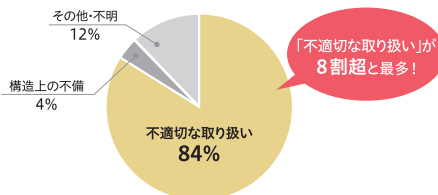
労働災害の約8割は、停車時に発生

停車中の危険は、すぐ側に

ロールボックスパレット災害編

物流の効率化や作業者の負担軽減に貢献するロールボックスパレットは、多くの職場で活用されている一方で、労働災害が多数発生しています。また、ケガをした半数近くの方が作業経験1年未満だったことから、作業に不慣れな時期での安全対策がカギとなります。今回は、ロールボックスパレットの災害事例および安全対策を紹介します。

ロールボックスパレット取り扱い作業中の労働災害発生状況(2020年)

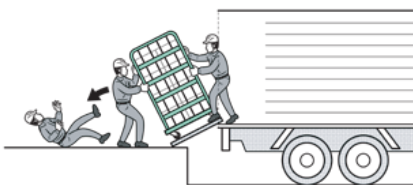


出典：陸上貨物運送事業労働災害防止協会「陸運業における労働災害発生状況及びロールボックスパレットの取扱い作業中の労働災害発生状況」

災害例

降ろし作業中に足を滑らせて転倒

2人でロールボックスパレットを降ろす作業中に、プラットホームと荷台に渡した板の上でパレットが転がりました。パレットの前で支えようとした作業者が足を滑らせて転倒した。



原因

- 渡り板の傾斜が急な状態で作業を行った。
- 傾斜のある場所でロールボックスパレットを「引いて」動かした。

対策

- 荷台とプラットホームの高さに差がある場合、十分な長さの渡り板を使用し、スロープを緩やかにする。
- 傾斜上では、ロールボックスパレットは必ず「押して」動かす。
- 押す際は、2人が荷台の中から加速がつかないように、支える感じで動かす。

ロールボックスパレットを使う前に

5つの基本チェックリスト

ロールボックスパレットを使う時は、下記のチェックリストで基本の作業方法を点検しましょう。

- 倒れそうになったら無理に支えず逃げること
- 停止時は必ずキャスターストッパーを使用すること
- 原則として、傾いた場所では使用しないこと
- 両手で持って運搬すること
- 作業にふさわしい装備をすること

荷役災害対策はこちらから

